



まちづくり構想の実効性について

齊藤 貢一 議員



質問 立地適正化計画、都市計画マスタープランの中では、ウォーカーブルなまちづくりの推進をあげていますが、人が回遊し、集客するための拠点づくりの方向性について伺います。

答 中心拠点では、行政施設、文化施設、医療施設など多くの施設配置や効率

的なサービス提供によって都市機能の確保を図るものですが、こうした機能の維持、拡充を目指します。

質問 空き家が増加する状況の中、中心地域に所在する土地の流動性が問題となりますが、土地の集約と、ミニ区画整理のような事業を行う判断を伺います。

答 今年度実施した空き家実態調査をもとに、所有者の意向及び土地の取り扱いを確認し、空き家バンクや空き家除去助成金を案内

すること、利用可能な土地を生み出すなどの対策を推進するとともに、民間活力を利用した取組についても研究していきます。

質問 中央通り線拡幅工事が始まりましたが、下町通り拡幅工事を行った時の商店数の推移を伺います。

答 下町通り商店街の会員数は、拡幅工事開始時には60件を超えていましたが、完成時には24件、その翌年には17件となりました。

質問 道が広がるだけでは、にぎわいも生まれません。中央通り線拡幅工事は始まったばかりですが、下町通り拡幅工事を教訓として、まちなか再生に向けた市長の決意を伺います。

答 住宅や商店だけでなく、職場など様々な機能を集積するミクスْتُユースの考え方で昼夜間の人口バラ

ンスをとり、交流人口や定住人口の増加を図り、経済・観光活動の活性化を目指します。例えば、公共施設の建て替えの際には、まちなかに立地し人の流れを誘導することや、公有地に子育て世代のための施設を誘致

します。計画を形骸化させないことが一番大切であり、常に改善を図る、組織を柔軟に再編する、民間活力を取り入れるなど、計画を実現する強い意志を持って取り組んでいきます。



つつじが岡パークイン再開に向けての現状と課題について

篠木 正明 議員



質問 つつじが岡パークインについて、サウンディング型市場調査を行ったとのことですが、どのような提案があったのですか。

答 6事業者が参加し、モダンな簡易宿所、うどんやハスをテーマにしたレストラン、観光農園などを取り入れたホテル等の提案が

ありました。
質問 サウンディング型市場調査での提案を事業化する上での課題は何ですか。

答 つつじが岡パークインと南側の公園用地、つつじが岡公園も含めた全体計画を考える必要があります。この計画により、整備手順や運営方法などを整理し、

財政計画も必要になると考えています。さらに、民間活力の導入は、コロナ禍の影響で先が見通せない状況です。これらの課題を整理した上で、計画の実現に必要な都市計画の手続きを関係部署と協議していきたいと考えています。

質問 つつじが岡パークインの再開時期について、どう考えているのですか。
答 再開時期の目標はありません。しかし、都市計画の手続き等もありますの

で、計画を早急に作って、事業実施に向けて対応していきたいと考えています。
質問 収益性があつて、集客力が高い施設を作ること

は必要だと思えます。しかし、それが実現するのに、何年かかるか分からないのでは困ります。市民には一日も早く再開を求める声があります。パークインを以前と同じ形で再開させ、運営しながら、次の段階の検討を進めて事業化するのが、市民の声にも応えられ、現

实的だと思えますが、そのような考えはないのですか。
答 先にパークインを再開し、それから将来に向かつてやっていくべきとの提案をいただきました。関係部署との協議を進める中で、今後も検討していきたいと思えます。

サウンディング型市場調査
●事業化検討の中で、民間事業者との意見交換を通して、事業に対するアイデアや意見を把握する調査